

通信 ④

アブラゼミ「カメムシ目・セミ科」に寄生する昆虫たち

セミは夏の風物詩として親しまれ、中でもアブラゼミは平地の都市から低山地まで最も普通です。大型で茶色のハネ、そして鳴き声の特徴から他のセミと区別が容易です。通常7月の初め頃から鳴き始め、10月まで鳴き声を聞くことができます◆一般にセミの成虫の寿命は1週間と言われますが、3〜4週間程度は生き続けます。



アブラゼミ(左)と、寄生するセミヤドリガ(右上)とヒコサンヤチニクバエ(右下)

卵は木の枝の中などに産み付けます。翌年、ふ化した幼虫は地中に潜り、木の根から養分を吸って成長。幼虫期7年説がありますが、環境で異なります◆産み付けられた卵には、ハチの仲間のセミタマゴバチが寄生して卵の内部を食べます。体長0.6mm程の、大変小さなハチです◆成虫のセミにはガの仲間のセミヤドリガやハエの仲間が寄生します。セミヤドリガは幼虫がセミの外部に付着して腹部の関節膜から体液を吸います。白色の蠟物質を分泌して綿のように見え、よく目立ちます。寄生はヒグラシ(カナカナゼミ)に多いのですが、アブラゼミにも寄生します◆寄生バエは、幼虫が内部から筋肉を食べるため、発音異常を起こすか、鳴けなくなりません。ヒコサンヤチニクバエとホオザワニクバエが知られています。これらのハエがアブラゼミに寄生することが判明したのは、つい最近のことです。(林田直哉)

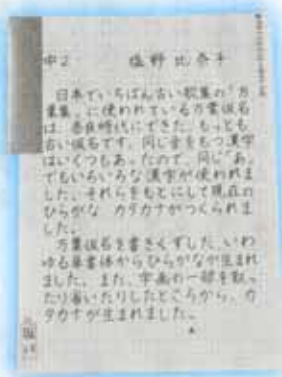
おごせ アートミュージアム



3年 高野 香菜さん



3年 岩崎 香純さん



2年 塩野 比奈子さん



1年 戸口 里々彩さん

越生中学校

8月の納税

町 県 民 税 第2期
国民健康保険税 第2期
(8月31日まで)

人口と世帯

7月1日現在
()は前月比

総人口	12,696人(-14)
男 性	6,330人(- 7)
女 性	6,366人(- 7)
世帯数	4,966世帯(+ 2)

夏休みの定番といえば、毎朝のラジオ体操。子供の頃、母親に起こしてもらい、ひたすら皆勤賞を目指しました。ところがある朝、母親が寝坊し、結果として自分も遅刻。皆勤賞を逃し、母親に激しく抗議した記憶があります。今思えば、なんと不条理な怒り方だったことか!。8月26日にラジオ体操が町にやってくる予定です。今になっても相変わらず早起きが苦手な自分は、当日のために目覚まし時計を買い足しました。みなさん、お誘い合わせのうえぜひお越しください。(月)

あごがき

【お詫びと訂正】7月号の7ページ「わだいなぎ祭り」において、たかとりクラブ連合会春季グランドボール大会入賞者とたかとりクラブ連合会春季グラウンドゴルフ大会入賞者の紹介写真が、逆になっておりました。訂正してお詫び申し上げます。